

## 2018年度を振り返って

地域連携センター長 村田 信行

地域連携センターでは、以下のような三本の柱のもとで、「学生が地域とつながる仕組み」づくりに取り組んでいます。2018年度もほぼ計画通りに多岐にわたる活動を行いました。

### 産学官連携による地域貢献

昨年度始まった長野県とJAながのとの連携「子どもの未来応援プロジェクト」は、JAより食材を提供いただき、子ども居場所づくりと子育て世代の支援をめざした「こども食堂・丘の上レストラン清泉」と、その自炊版ともいえる「こどもセルフ食堂」をそれぞれ年6回開店し、好評でした。

県の元気づくり支援金事業「こども文化祭 キッズカルチャーEXPO2018」は10月に開催し、親子など800名もの参加を得ました。

### 生涯学習の推進

公開講座、授業開放講座、地域への出張講座を実施。公開講座では「公認心理師試験対策の公開講座」を継続するとともに、小学校でプログラミングの必修化が予定されるなか、キッズ・プログラミング教室を開催しました。

### 学生の社会活動参画の推進

信濃町と学生との観光施設をめぐる連携、2年目となる動物

## 映画上映会『母—小林多喜二の母の物語—』

室井美稚子

この地域映画上映会は、生涯学習事業の地域発信特別企画として、毎年実施されており、地域の人々が楽しみにしてくださっている。今年度は9月1日、山田



『母 小林多喜二の母の物語』(2017年) 監督/山田火砂子 主演/寺島しのぶ

火砂子監督作品の『母—小林多喜二の母の物語—』を上映した。昨夏は酷暑で大変だったが、さすがに9月に入り涼しく感じられる小雨模様の日、約200名が足を運んでくださった。

本作は、2017年に公開された作品で、プロレタリア文学者として名高い小林多喜二の母親・小林セキを描いた三浦綾子の作品「母」が原作である。昭和初期の秋田や北海道での貧しいながらも仲の良い家族模様がいねいに描かれている。いつの時代でも変わらない母親の子供を想う心、また治安維持法がひかれて



多数の親子が参加した「キッズ・プログラミング教室」(8月)

介在活動による「いのちの教育」として「スマイル☆キッズわんクラブ」など、地域と連携をする活動を支援しました。地域連携センターへ寄せられる地域のさまざまなボランティア活動の求人は多岐にわたり件数も増えています。今後は学生への適切な情報提供やマッチングなどの課題に真摯に取り組んでまいります。

今年度は文化学科の開設もあり、大学短大合わせて過去最高となる新入生を迎えましたが、

学生の参加や反応はやや鈍かったように思われます。来年度はさらに看護学部新設も控えて、新たな活動のほかに思い切った受け入れ方法なども試行する年にならんと考えます。

## ボランティア活動に参加して

幼児教育科2年 田中 里英



私は入学するまで、正直なところ、ボランティア活動に参加したことがなかった。そのため、ボランティアがどのような営みであるか理解していなかった。しかし、ボランティア活動に参加するにつれ、その営みがどれだけ尊い経験を作ることができる場所なのかを、たくさんの経験から学んだ。それは、これまでボランティアを敬遠していた自分に対して、もったいないという思いを抱かせるほどであった。

いたこの時代と今、そしてキリストの生涯と例えての三浦綾子の想い、などなど多様なテーマが盛り込まれていた。アンケートでは、「語り伝えてゆく手段として意義のある上映であった」「我が国の過去を改めて振り返るよい機会となった」「時代によって平等、自由が左右されてはならない」「このすばらしい映画をたくさんの人が観ることで平和な世界が続くことを願う」などの声が寄せられた。作品選びは例年難しいが、開かれた大学として「良かったね」と帰りに言い合ってもらえるようにしたいと考えている。アンケート結果を勘案しながら、質の良い作品を、今後も提供していきたい。

Happy week end というイベントでのキッズブースの担当、全国紙芝居大会スタッフ、地域の三歳児まつりでの子どもへの指導など、本当にさまざまなボランティア活動に参加した。そして、「ここでしか学ぶことができない」「自ら経験しないとわからない」というたくさんの体験ができたことを今、実感している。またボランティア活動を通して、「人々の繋がり」の重要性を感じるとともに、「人と関わることの喜び」を全体で感じる事ができた。これは人対人の関係が大切になる仕事である「保育」という職に大きく通ずるものがあると考えられる。SNSなどインターネットを通じてのコミュニケーションが主流となっている現代社会において、このような実感を得ることができたのは、とても貴重なことだと思う。ボランティアを通じて得ることができた出会いや学び、経験を糧として、社会に良い影響を還元していく私でありたいと思う。